

令和4年度文化財展

へきなんびと

碧南人が行き交った古代の海辺

は ず み な み か ほ
— 幡豆郡大浜郷 南霞浦遺跡より —

令和4年 11月12日[土] ~
12月8日[木]

9時~21時(月曜日休館)

碧南市文化会館 展示室1

(碧南市源氏神明町4)

観覧無料



知多式製塩土器

伊勢湾

衣浦港

南霞浦遺跡



ハマグリ



木簡「大濱五」

(奈良・石神遺跡出土、
奈良文化財研究所蔵/
7世紀後半)



塩が入った製塩土器

(令和3年 安城市埋蔵文化財センター
・西尾市塩田体験館で制作)

幡頭神社

三河湾

佐久島



土錘

(漁網用のおもり)

篠島

羽豆神社

“ハズ”の海人が
往来した世界



濃い塩水(かん水)を入れた
製塩土器を炉に並べて煮つめる
(データ提供・大府市歴史民俗資料館)



渥美式製塩土器



チャート



イワガキ

主催 碧南市・碧南市教育委員会

主管 碧南市文化財保護審議会

お問い合わせ 碧南市教育委員会文化財課 TEL 0566-48-6602
(月~金曜日)

古代の碧南市域は大半が三河国幡豆郡「大濱」里(郷)と呼ばれ、幡豆郡は三河湾や衣ヶ浦をまたにかけた海人たちの営んだ地域でした。

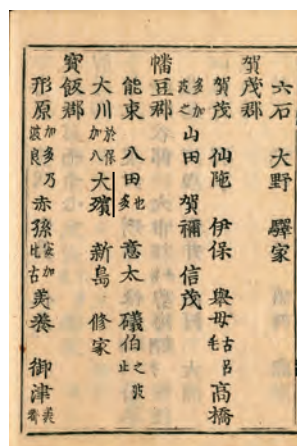
碧南市東浦町の南霞浦遺跡(令和2年度調査)は古代の海人たちが塩を焼いた製塩遺跡です。

出土品からは、製塩土器のスタイルを知多様式から渥美様式に変えたり、渥美のイワガキを食したりするなど、興味深い景色がうかがえます。

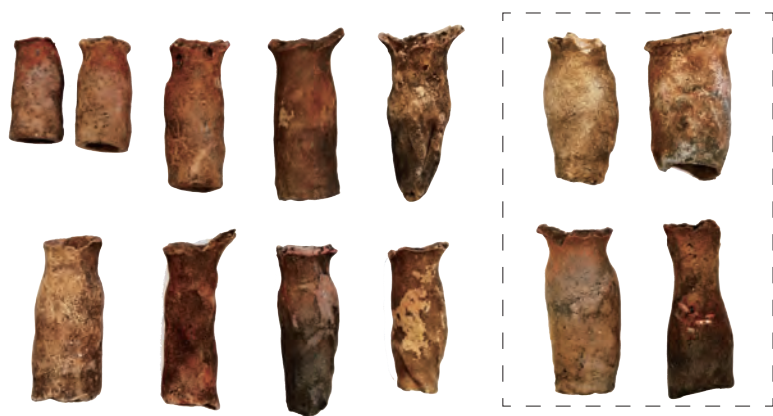
本展を通し、南霞浦遺跡で製塩に従事した「海人＝碧南人」の痕跡に触れ、海に生きた先人たちに想いを馳せていただければ幸いです。



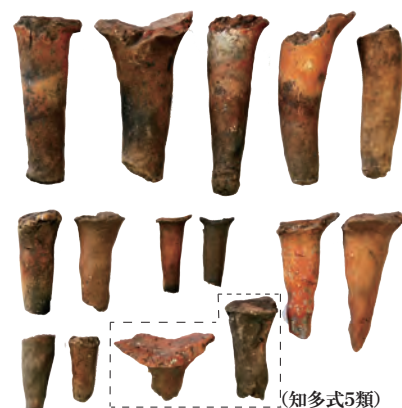
木簡「大濱五」
(奈良文化財研究所蔵)
7世紀後半 パネル展示



「倭名類聚抄」より
三河国幡豆郡の郷「大濱」
(国立国会図書館蔵、パネル展示)



知多式製塩土器(脚部)
(南霞浦遺跡独特の形状)



渥美式製塩土器(脚部) (□□は知多式)



【漁撈】土錘 網漁に使用したおもり。サイズは獲物に応じ、網とセットで使い分けた。



【食】貝殻 食べたその場の足元に捨てた。
イワガキ(左上)は渥美半島の岩場ならどこでも採れる。



【搬入石材】石敷遺構
石材はほとんどがチャート。渥美半島にはチャートの産出地が多い。

●記念講演会

令和4年12月3日(土) 14時～15時30分
大浜公民館(碧南市中町1丁目53番地) 2階 ホール
講師:早野浩二氏(愛知県埋蔵文化財センター)
演題:“ころもがうら”の塩づくり
定員:50人(先着順) 無料
申込み:令和4年11月4日(金)午前9時より、碧南市教育委員会文化財課へ電話(0566-48-6602)または直接。

●ギャラリー・トーク(展示説明会)

令和4年11月12日・26日(土) 14時～30分程度。
説明:伊藤利和氏(碧南市文化財保護審議会委員)
無料 予約不要。展示会場にお集まりください。



会場 碧南市文化会館

碧南市源氏神明町4番地 TEL 0566-42-3511

●名鉄三河線 碧南中央駅下車、東方向へ徒歩約10分。

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、会期・時間等に変更がある場合があります。最新情報は碧南市文化財課ホームページをご確認ください。